

点描ぐんま経済

日銀支店長

見聞録

■134■

他県のイベントで恐縮

だが、先月、静岡県の富士スピードウェイで開催された「スーパーママチャリGP」に仲間と参加した。念のためママチャリとは、最も一般的な街乗り自転車（俗称で、やや時代錯誤だが、「ママが乗る自転車（チャリンコ）」だ。

レーシング車が疾走するために作られたサーキットは高低差が30m以上もあるが、この場所でもママチャリによる6時間耐久レース。チーム戦（人数制限なし）で、思い思

すき間の経済

オフ期に付加価値を

いのペースで挑めるのが楽しい。

今回は3度目の参加だったが、例年通り結果は

宿泊が復活したことで、参加者は、4千人以上と急増した。参加者同士の交流も見られ大いに盛り上がった。

このレースは一見「大人がバカをやる企画」だ。全力で優勝を目指す

のもよし、チャリやコスチュームに趣向を凝らす

ールなど、大きな施設のオフ期での有効活用は簡単なことではない。ただ、この「すき間」において

人々のニーズに合うコトを提供できれば、それは大きな付加価値になると思う。

群馬県は広大な土地に恵まれ、大型施設も多い

への取り組みは、地方ならではの醍醐味なのではないか。

こう考えてみると、赤城大沼（前橋市）のワカサギ釣りは、オフシーズンの冬山に、県内外から多くの人が訪れるポテンシャルを發揮していることに気付かされる。しかも今季は5年ぶりの全面

結氷だ。極寒の氷上での釣りは、非日常の感動と自分との闘いになりそう

だ。きつと、釣果は二の次なのだ。来月、行ってきます。

芳しくなかった。ただ、そんなことはどうでもいい。当日は天候にも恵まれ、雪で覆われた富士山を眺めながらチャリでサーキットを疾走できる非日常と、待ち時間に仲間とつつくもつ鍋が最高の思い出になった。

のもよし。同時に、このイベントには、オフシーズンとなった広大な敷地をどう有効活用するかという地域課題を克服する

だけに、同じような悩みがあるかもしれない。ただ、この「すき間の経済」

だ。きつと、釣果は二の次なのだ。来月、行ってきます。

しかも今大会から場内夏のスキー場、冬のス

も期待できる。



宮 将史（みや・まさひさ）

1974年生まれ。神奈川県出身。一橋大経済学修士。

2000年日本銀行入行、政策委員会室国会渉外課長などを

を経て24年7月から現職